

国際地理学連合(IGU)京都国際地理学会議における 都市コミッションの伏見旧市街地 2 時間エクスカージョンと 汎用型英文ブックレット

香川貴志¹⁾

Two-hour Excursion around Fushimi Historical Area by the Urban Commission of the
IGU (International Geographical Union) 2013 Kyoto Regional Conference, and the
General-Purpose English Booklet for the Excursion

Takashi KAGAWA

抄録：本報告は、2013年8月4～9日に国立京都国際会議場を主会場として開催された国際地理学連合(IGU)京都国際会議における、同組織内の都市コミッションが主催した伏見旧市街地における2時間エクスカージョンの設計と実施に関する記録である。地理学のエクスカージョンは、フィールドトリップあるいは巡検と呼ばれることもあり、自然環境と人文・社会環境を広く対象とする環境科学としての特質が凝縮されたものでなくてはならない。その設計は、筆者が従前に実施してきた試みを総括し、都市伝説的な記述を排除するなどのグレードアップから始めた。このコースは、伏見旧市街地の全てを網羅したものではない。しかし、短時間で同地域のエッセンスを把握できるよう設計されている。コースの概略と当日に配布したブックレット(タイプミスなどを修正)は、伏見旧市街地を国内外の誰にでも案内できる素材の一つとなり得る。

キーワード： 国際地理学連合、エクスカージョン、酒造業、商店街、景観、伏見

I. はじめに

IGU 京都国際会議(以下、IGC と記す)は、多くの国や地域から約 1,500 人の参加者を集めた大盛況の国際学会(National Committee of Japan for IGU, 2013)として、日本の地理学界にとって大きなマイルストーンとなった。筆者は IGC では主に国際地理オリンピックコミッションにおいて業務をこなしたが、並行して都市コミッションの業務にも携わった。そのうちの1つが、本稿で紹介する伏見旧市街地をフィールドとした2時間エクスカージョンの設計と案内である。

伏見は、西国諸藩が江戸との往来の際に通過した要害の地として、また京都盆地の豊富な地下水を基盤に清酒醸造業が発達した地として、さらに近代国家になってから第二次世界大戦の終結までは軍都として名を馳せている。こうした数奇な歴史をもつ現代都市であることが着目され、2013年国際地理オリンピック京都大会では、フィールドワークテストの舞台に選定されている。そのフィールド選定に深く関与した国際地理オリンピックのタスクフォースのうちの1名が、本稿に付した英文ブックレットの原型(筆者作成)が大いに役立ったと話している^{注1)}

1) 京都教育大学

II. 2 時間エクスカージョンの設計

地理学で頻繁に行われるエクスカージョン（現地見学と現場での討議）は、広い範囲を移動しながら知見を得るエクステンシブ型、徒歩やローカルな公共交通機関によって比較的狭い地域を深く掘り下げて知見を得るインテンシブ型、これらの 2 つに大別される。本稿で紹介するのは後者のインテンシブ型に属するエクスカージョンである。エクスカージョンは、エクステンシブ型であれインテンシブ型であれ、携行しても邪魔にならない最低限の地図と案内ブックレットを基盤として、エクスカージョン設計者によって案内される。詳細な記述は現地行動に向かないため、細かな補足事項は現地で口頭説明される。異説がある事項については、いずれか又は 2 点ほどを選んでブックレットに載せることが多い。この点が歴史学の現地討議とは少し異なっている。

今回のエクスカージョンは、IGC の都市コミッション関係者から大会開始の数か月前に打診されて引き受けた。IGC の都市コミッションが主催する会議（研究発表と討論）は、2013 年 8 月 6・7 両日に開催されたが、9 日には都市セッションのエクステンシブ型エクスカージョンが、京都～千里ニュータウン～大阪都心～神戸のルートで企画されていた（筆者はここでもコース設計と案内の一部を請け負った）。そのため、8 月 8 日がblank となってしまう、日本に不案内な外国からの参加者に何らかのサービスを提供する必要があった。

コースの骨組みは、筆者が在外研究中に滞在したブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ国バンクーバー市）の地理学研究室が海外エクスカージョンで来日した折に案内した 3 回の経験で築きあげてきたものである。微調整を施しながら完成したのが今回のコースであるが、とくに中高年の参加者が居る場合の酷暑や厳寒に見舞われる日は、体力を消耗する最終地点（L 点、図 1 参照）を割愛した方が健康上の理由から無難である。

III. 汎用型英文ブックレットとその活用方法

本章では、客人を案内するすべての人びとの使用に耐え得る汎用型英文ブックレットの印刷・簡易製本用の原稿を提供する。時代を問わず使用できるよう配慮して、記述の際には「10 年前に完成した」ではなく「2004 年に完成した」というような表現に努めた。また、武島（2011, 2013）が執拗に批判した西城戸・香川・武田（2006）や香川・山崎（2008）の記載内容^{注2)}については、誤解を生じやすい部分を今回の英文ですべて調整済みである。

ページ構成は、国土地理院の 1/10,000 地形図「伏見」を基図としたコース案内図を表紙（表紙の裏は A5 用紙に両面印刷をする場合の映り込みを避けるため白紙）、目次を 1 ページに配置し、個々の見学ポイントの簡潔な説明を 2 ページ以降において 1 ページずつ施して、全体で 13 ページのブックレットとした。裏表紙となる 14 ページ目は文章を避けて白紙とした。したがって、簡易製本する際には裏表紙には好みの文章やロゴを入れることができる。

表紙は、図 1 を 125% で拡大複写のうえ、エッジのトンボ（+印マークの交点）を結んだ線でカットして A4 用紙の左半分に貼付すると、二つ折りで A5 版ブックレットの原稿になる。二つ折りにする場合の右半分には、集合場所や集合時間などの情報を加筆することもできる。ただし、上述のとおり A5 用紙に両面印刷する場合は、記載事項が映り込むと地図が見難くなるので、裏側には何も記入しない方がよい。1 ページ以降は、1・2 ページ、3・4 ページのように奇数ページが左側にくる（二つ折りにした時に見開き右側が奇数ページとなる）よう設計している（図 2）。本稿では、これら 2 ページ分の原稿を紙幅の都合により A6 用紙の 80% 大で提示しているので、これを A4 用紙大（二つ折で A5 版）の原稿にするには、複写機で 249% 拡大を施せばよい。なお、このようにして原稿を準備する場合、この年報のページ番号、ランニングタイトル、ブックレット原稿についての図タ

イトル (図2「英文ブックレットの原稿(その〇)」)を修正テープや修正液で消しておく必要がある。

IV. エクスカーションの実施

IGC 都市コミッションの2時間エクスカーションは、2013年8月8日の14時にJR奈良線桃山駅(図1の右端上部)に集合して、図1のA地点から順に筆者が説明を施しながら歩いた。参加者は日本人5名、外国人4名(スイス、ニュージーランド、ブラジル、ポーランド)であった。当日の体感温度が非常に高かった(最高気温36°Cの晴天)ので、熱中症を避けるためL地点は割愛する旨を集合時に説明した。過去にも猛暑の時期に実施した場合に同様の割愛を施した経験がある。また、参加者の疲労が著しかったため、F地点ののち30mほど南側に移動してから西方向に曲がって油掛通を進み、G地点とH地点を結ぶ商店街との交差点に出た。ここから後のI地点とK地点は空調が整っている屋内施設であるため、気象条件が厳しい時期でも体力の回復ができる。

参加者は、すべての地点で期待以上の関心を示した。それゆえ当初予定していた2時間エクスカーションは約3時間に及んだ。国内外を問わず、参加者は総じて清酒醸造業の基盤となっている地下水に興味を持ったようである。地下水脈の遮断を懸念して高架路線となったC地点においても、自然環境を基盤とした人文・社会環境の説明は関心と感心を呼んだ。かつて「伏水」と書かれた伏見は、現代にあっても地下水との深い関係によって成り立っている。こうした総合的な環境観察に適した伏見は、コンパクトなエクスカーションには極めて好適なフィールドを提供してくれる。当地に立地する教育研究機関に勤務する者として、我われにはその魅力を国内外に発信していく責務がある。その際、本稿を活用して英文リーフレットを作成すれば、参加者にとって分かりやすいエクスカーションを実施できる。

付記

本稿の英文ブックレットの作成に際しては、カナダ国ブリティッシュ・コロンビア大学のDavid W. Edgington先生に校閲をいただきました。英文は英国式で表記しています。また、当エクスカーションの実施に際しては、IGC 都市コミッションを統括した東北大学大学院理学研究科の日野正輝先生から多大なる助力をいただきました。未筆ながら、以上の方々に厚く御礼申し上げます。なお、本稿の作成に際しては、その一部に、平成25年度科学研究費補助金(基盤研究A)「持続可能な都市空間の形成に向けた都市地理学の再構築」(研究代表者:日野正輝, 課題番号:24242034)、ならびに平成25年度科学研究費基金(基盤研究C)「成熟住宅地の持続的発展に向けた環境整備に関する地理学的研究」(研究代表者:香川貴志, 課題番号:24520887)を使用しました。

注

- 1) 第10回国際地理オリンピック京都大会(2013年7月30日~8月5日)の期間中、フィールドワークテストの直前確認に行った際、タスクフォースのLex Chalmers氏(ニュージーランド、ワイカト大学)から聞いた話による。
- 2) 武島(2011)の批判は様々な見解を比較しつつ論じたものであったが、武島(2013)には残念ながら地図読解の甘さや事実誤認などの問題点が多い。詳しくは香川(2014)を参照。

参考文献

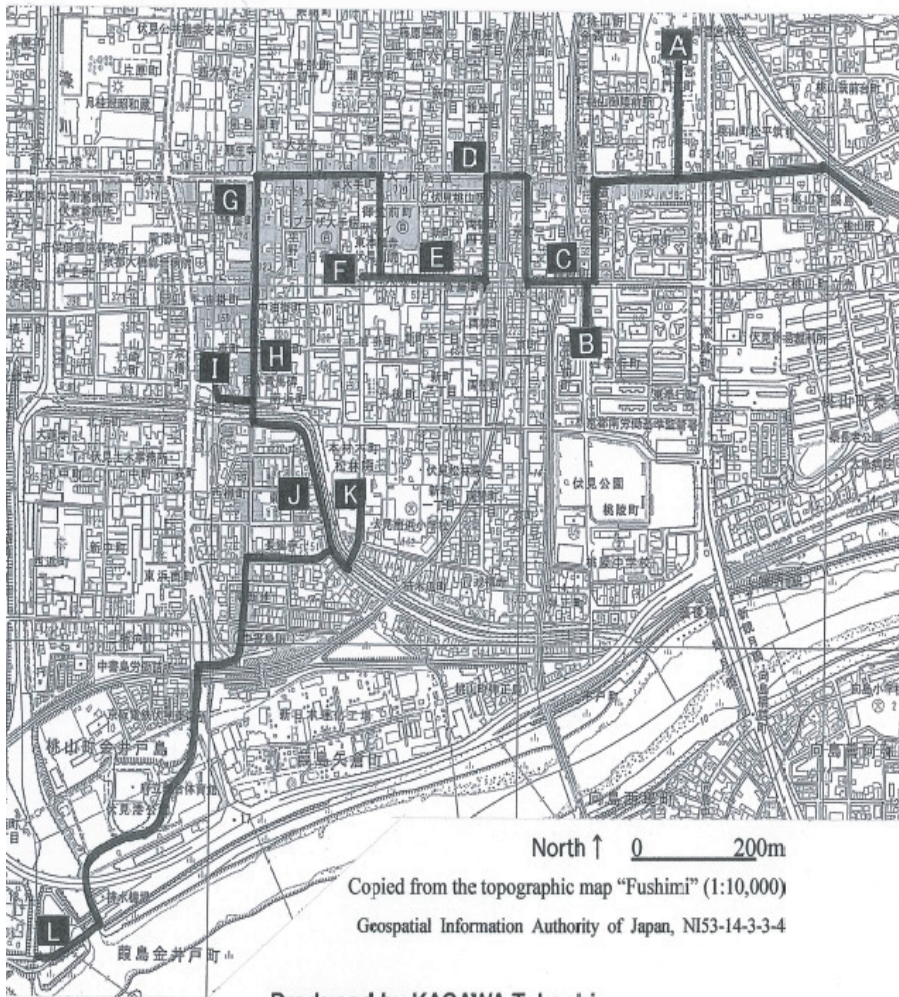
上野 裕 2010 「伏見一城下町から港町へ」(野外歴史地理学研究会編『近畿を知る旅—歴史と風景—』ナカニシヤ出版, 京都, 所収 pp.18-21.)

- 梅澤直樹 2010 「地域中心商店街の活性化を求めて—「伏見大手筋商店街」の現代史を手掛りに—」滋賀大学経済学部研究年報 17, pp.33-63.
- 遠州敦子 2002 「商店街における個店「入れ替わり」の意味—伏見大手筋商店街にみる実態と商店街組織の対応—」佛教大学総合研究所紀要 9, pp.47-64, および pp.160-162.
- 香川貴志 1993 「京都市伏見区旧市街地における再開発と景観保全」(山田安彦教授退官記念論文集記念会編『転換期に立つ地域の科学』古今書院, 東京, 所収 pp.209-215.)
- 香川貴志 1998 「京都市伏見区における中心市街地の活性化」1998 年度日本建築学会大会(九州)都市計画部門研究協議会資料, pp.303-310.
- 香川貴志 2001a 「伏見の景観」京都教育大学環境教育研究年報 9, pp.63-70.
- 香川貴志 2001b 「歴史都市京都における現代の都市計画と都市景観」(橋本征治編『人文地理の広場』大明堂, 東京, 所収 pp.74-77.)
- 香川貴志 2007a 「マンション建設と伝統的景観の相克」(植村善博・香川貴志編『京都地区絵巻』古今書院, 東京, 所収 pp.10-11.)
- 香川貴志 2007b 「伏見—新旧風情の同居—」(植村善博・香川貴志編『京都地区絵巻』古今書院, 東京, 所収 pp.122-123.)
- 香川貴志 2014 「京都教育大学紀要 123 号掲載の武島良成氏からの香川貴志および地理学に対する批判への謝辞および反論」、京都教育大学紀要 124、印刷中(最終校時点までページ未定)。
- 香川貴志・山崎貴子(2008)「中学校社会科地理的分野における地形学習と地域学習との相互リンクの試み—扇状地から複合扇状地を経て伏見地域の探求へ—」、京都教育大学環境教育研究年報、16、pp.39-55.
- 小西泰次郎 1996 「京都の水・伏見 その2—月桂冠大倉記念館—」地下水技術 38-6, pp.42-47.
- 櫻井昭三 2008 「月桂冠大倉記念館」Rikatan:理科の探検 2-10, pp.16-19.
- 武島良成(2011)「奈良電気鉄道の澗川橋梁と高架橋の神話」、京都教育大学紀要、119、pp.1-16.
- 武島良成(2013)「『地歴融合』は可能なのか?—伏見の地誌をめぐる認識のズレ—」、京都教育大学紀要、123、pp.1-16.
- 辰巳 勝 2000 「2 時間エクスカッションガイド(7)—巨椋池干拓地から伏見へ—」地理 45-1, pp.70-75.
- 西城戸誠・香川貴志・武田一郎(2006)「『伏見』を歩く・調べる・紹介する—第 10 回ふれあい伏見フェスタ・『歩いて再発見! 伏見の魅力』の記録—」、京都教育大学教育実践研究紀要、6、pp.11-20.
- 西邑雅子・松田隆典 1997 「伏見酒造業の展開と産地構造」新地理 45-3, pp.19-27.
- 松井久美枝 1979 「伏見酒造業の展開過程—19 世紀中期より 20 世紀初頭にかけて—」奈良女子大学文学部研究紀要 23, pp.77-100.
- 山崎俊夫 2005 「京都伏見・三栖開門(みすこうもん)に学ぶ松重開門の保存・活用のあり方」CREC 152, pp.92-102.
- National Committee of Japan for IGU 2013 “IGU 2013 Kyoto Regional Conference” International Geographical Union.



Welcome to Kyoto and Fushimi District

The Guide Book of Fushimi Historical Area



Produced by KAGAWA Takashi

Professor

Department of Geography, Faculty of Education
Kyoto Univ. of Education (Kyoto Normal University)



図1 伏見案内の汎用型英文ブックレットの表紙

(1:10,000 地形図「伏見」[2005年5月1日発行]を80%縮小)

+

+

The Guide from point **A** to point **L**

- A** Old shrine *Gokogu (Gokounomiya)*
- B** Unique design *Toryo* apartment house
- C** Elevated railway (Kintetsu Kyoto Line)
- D** Traditional shopping street *Otesuji*
- E** Unique sidewalk and roadway
- F** Defense road system in the castle town
- G** Traditional shopping street *Nayamachi*
- H** Traditional shopping street *Ryoma-dori*
- I** Historical wooden hotel *Teradaya*
- J** Comfortable riverside walk *Ujigawa-Haryu*
- K** Japanese Sake Museum *Okara Kinenkan*
- L** *Misu* canal gate (*Misu Kaumon*)

1

A Old shrine *Gokogu (Gokounomiya)*

Gokogu shrine is an old *Shinto* shrine was established in 862. A present main building of this shrine was completed in 1605. We can drink the same groundwater used in the brewing of Sake (Japanese rice wine) in the northwest corner of this shrine. The front gate of this shrine was a main gate of Fushimi Castle; it was moved to here in 1622.

2

+

+

B Unique design *Toryo* apartment house

These apartment houses were rebuilt on a site of old and more conventional 2-story apartments, and were completed from 1988 to 1991. The greatest feature is their *sakagura* (warehouse of Japanese Sake) style which is one of the famous landscape of Fushimi. If you compare with the actual *sakagura* that we inspect later, it will be interesting. This housing complex is the place in which the magistrate's office (*bugyo-sho* in Japanese) was established in the *Tokugawa-Era*. Therefore, the name of this place is called Bugyo-machi (magistrate town). Afterwards it became the military ground of the Japanese Army before 1945 (the end of WW II). Later on it was requisitioned by the U.S. Forces after the war, and then the first city-owned residences were built here about 1960.

3

C Elevated railway (Kintetsu Kyoto Line)

This section was elevated since its opening in 1929. It is said that there are two reasons. One is the government's opposition due to their thought that it was disrespectful to the Japanese royal family if a railroad cross the roadway to the *Momoyama-Goryo* (the Meiji Emperor's grave). And the other is the army's objection to laying railroad on the ground, because it was inconvenient for their activities.

Therefore, the railway company decided originally to make subway. However, the local brewing association objected to this plan, because they were afraid the subway would cut off their groundwater stream. The solution to this problem led to making the elevated railway.

4

+

+

図2 (その1) 汎用型英文ブックレットの内容 (1~4 ページ)

+

+

D Traditional shopping street *Otesuji*

This is the most famous shopping street in Fushimi district and it has an arcade (completed in 1997) which can perform solar power generation. The amount of the maximum power generation is 30kw per hour. Although the present arcade was completed in 1997, the first one was completed in 1971. In today's Japan, many old shopping streets like *Otesuji* are declining because people prefer to go shopping by car, rather than walking. However, the population density in the surrounding area of *Otesuji* is very high, and so many people here come shopping on foot. Consequently, a remarkable decline is not seen here.

5

E Unique sidewalk and roadway**Question**

Why does not this sidewalk have a barrier or level difference with the roadway?

Select three answers from the following.

- ① In order to preserve a good landscape
- ② To promote 'universal design'
- ③ To improve driving safety
- ④ To save construction money

Answer See the bottom of page 8.

6

+

+

F Defense road system in the castle town

Due to this road system it was very difficult for an attacking army to enter the city centre and the castle because they could not see very far in front of them. This type of road system is called *Tomi-Shadan* (遠見遊歩) by Japanese geographers.

7

G Traditional shopping street *Nayamachi*

The *Passage Nayamachi Goban-gai* Shopping Street has an arcade, too. The first one was completed in 1956, earlier than *Otesuji* Shopping Street. The present one is the 3rd, and it was completed in 1996. Since there are many elderly customers who come here on foot, this shopping street has a special customer service. If a customer collects enough shopping stamps, they will be able to get shopping tickets or other goods.

Answer of the question on page 6 ① ② ③

8

+

+

**H** Traditional shopping street *Ryoma-dori*

This shopping street was given its present name in 1994. The former name was the *Minami-Nayamachi* Shopping Street. *Ryoma Sakamoto* is the famous name of a *samurai* who was very popular among the Japanese people. This shopping street is very close to the *Teradaya Hotel* (point **I**, which has a deep relation to Ryoma), therefore this shopping street was named *Ryoma-dori*. The pavement of this street was changed into a stone one from asphalt in 1997.

9

I Historical wooden hotel *Teradaya*

Teradaya is an original style Japanese hotel, though this building is a museum now. In 1866, *Ryoma Sakamoto* encountered an assassination attempt here. Many Japanese respected *Ryoma Sakamoto* as a brave samurai who helped to topple the government of Edo (*Tokugawa* government) and contributed to the Meiji Restoration. It is said that the present building was rebuilt in 1905. I recommend you to observe the structure of this traditional style Japanese hotel, because Japanese history is often difficult for many foreigners.

10

**J** Comfortable riverside walk *Ujigawa-Haryu*
(a branch of *Ujigawa River*)

The *Ujigawa-Haryu* is an artificial river built in order to carry in the material rice, used for sake to the Okura Brewing Factory (presently point **K**, the *Okura Kinenkan* = Okura Commemoration Hall). This river was also used to carry out ready-made sake. After railway and automobile transportation prospered, this river declined and weeds came to grow thick. In 1994, a waterfront maintenance program was carried out here. It is now a locally popular area as a walk way.

11

K Museum Japanese Sake *Okura Kinenkan*
(Okura Commemoration Hall)

This is the museum which was established by the greatest *sake* brewing company Gekkeikan (which means laurel wreath) and where we can understand the history and culture of *sake* brewing. Inside a hall, various tools in connection with the brewing industry can be seen. The brewing industry prospered in Fushimi because there is very good groundwater. We can check with the map which shows this exhibited, and we can also actually drink groundwater and Gekkeikan's *sake* in the hall.

URL
<http://www.gekkeikan.co.jp/english/index.html>

12



+

+

L *Misu canal gate (Misu Kounon)*

An improvement work of the Yodogawa River was begun early 20th century, and an embankment was built on the Ujigawa River's right bank. However, it became impossible to arrange the traffic of ships between Fushimi Port and the Ujigawa River. Therefore, the Misu canal gate was completed to cancel this inconvenience in 1929.

However, the river transportation declined because transportation moved to a land route, and so the Misu canal gate was not used. The water level of the Ujigawa River has fallen now due to the construction of the Amagase Dam in the upstream region.

13

+

+

図2 (その4) 汎用型英文ブックレットの内容 (13 ページ)